

平成21年度病害虫発生予察特殊報第4号

平成21年6月18日
愛 知 県

1 病害虫名：キク茎えそ病
(*Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV))

2 発生作物：キク

3 発生地域：東三河地域

4 発生確認の経過

平成21年5月、東三河のキク栽培ほ場において、茎や葉にえそ症状が発生した。農業総合試験場病害虫防除グループにおいて、RT-PCR法により検定した結果、*Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV)に特異的なバンドがみられた。

さらに、シーケンスした結果、塩基配列が既報のCSNVのそれと98.1%一致しており、キク茎えそ病と診断した。

キク茎えそ病は、平成初期にブラジルで初めて発見されたウイルス病である。国内では、平成18年8月に広島県で初めて確認され、現在までに8県で発生が報告されている。本県では初確認である。

5 病徴

茎の激しいえそ条斑、葉の退緑、えそ斑点を生じ、TSWVによるキクえそ病に酷似している。また、品種によって病徴が異なる。

6 病原ウイルスと伝染

病原ウイルスは、主にミカンキイロアザミウマによって虫媒伝染される。ふ化後間もない1齢幼虫が罹病植物を吸汁することでウイルスを獲得し、一旦、ウイルスを獲得すると死ぬまで伝搬する能力を持つ。種子伝染、土壌伝染はしないと考えられている。

キク以外では、群馬県でトマトへの感染が報告されている。

7 ミカンキイロアザミウマについて

病原ウイルスを媒介するミカンキイロアザミウマは、雌成虫の体長が約1.7mmで、雄成虫は約1.0mm。雌は葉肉内に産卵し、ふ化した幼虫は新芽、花等を吸汁加害して2齢を経過した後、土中で蛹になる。羽化して土中から脱した成虫は、葉や花を吸汁加害する。吸汁により花卉の部分的な色抜け、排泄物による汚れ、葉表のケロイド様症状を引き起こす。寄主植物はキク科、ウリ科、ナス科など極めて広い。成虫は青色に誘引される習性があるので、青色の粘着トラップを設置しておくことで発生消長を把握することができる。

8 防除対策

- (1) 発生ほ場では、発病株の抜き取り、埋却処分を行い、二次伝染防止に努める。
発生ほ場では、親株の感染も予想されるため、無病親株への更新を行う。
- (2) 媒介虫であるミカンキイロアザミウマを防除する。特に、親株床での防除を徹底する。
- (3) ミカンキイロアザミウマの防除にあたっては薬剤による防除だけでなく、ハウス開口部への防虫ネット（0.5mm目合）被覆による成虫侵入防止、ほ場および周辺の雑草や植物などの除去等物理的・耕種的防除法を取り入れる。
- (4) 栽培終了後は施設内を蒸し込み、ミカンキイロアザミウマを死滅させ、周辺への分散を防止する。同時に施設内に植物を栽培しない期間を設ける。

9 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除グループ

電話 0561-62-0085 内線471



図1 CSNVに感染したキクの茎えそ症状



図2 ミカンキイロアザミウマ雌成虫